

「防災シンポジウム in 武庫川」の開催結果報告

1 日 時 平成 21 年 2 月 21 日（土）13:30～16:50

2 場 所 尼崎市中小企業センター

3 内 容

① 基調講演 「地域防災力とは何か～災害に強い地域社会のあり方を考える～」

片田 敏孝 氏（群馬大学大学院教授）

② 現場報告 「台風 23 による被災体験から～円山川決壊現場からの報告～」

中貝 宗治 氏（豊岡市長）

③ パネル討論 「水害から命を守る」

・パネル展示では、台風 23 号の被災写真等のほか、下流 4 市のハザードマップを掲示し、来場者が自宅の住所地にシールをはるイベントを実施

4 来場者数 約 300 人（満席）

・報道関係 1 社（読売新聞 ※記事は別添のとおり）

5 アンケート結果（回答総数 179）

① 来場者の属性

・住所 尼崎市 16.2% 西宮市 42.5% 伊丹市 3.9% 宝塚市 4.5% 神戸市 8.9%
その他 24.1%

・性別 男性 92.2% 女性 7.8%

・年齢 60 歳以上 53.9% 50 歳代 19.1% 40 歳代 15.2% 30 歳代 9.6% 20 歳代 2.2%

② シンポジウムの効果

・内容に対する評価 非常に興味をもった 72.3% 少し興味をもった 26.5%

・水害の可能性 十分ありうらと思う 85.9% あると思う 13.6%

・防災に対する意識 すごく変わった 31.9% 少し変わった 59.6%

③ 防災への取り組みに対する意見

・重要と思うもの 「自助」 30.0% 「共助」 29.3% 「公助」 12.3%
防災への意識向上 26.8%

・知りたい情報 避難場所等 25.1% 雨量・水位 22.6% 被害予測 20.4%
緊急時の問い合わせ先 13.7% 防災訓練など 9.3%

武庫川の水害に備える

尼崎でシンボ専門家ら減災方法講演

武庫川での水害に備え、被害を軽減する方法を考える「防災シンポジウム in 武庫川」(県主催)が21日、尼崎市昭和通の市中小企業センターで開かれ、地域住民や行政関係者ら約300人が専門家らの講演に耳を傾けた。写真。



群馬大学の片田敏孝教授が地球温暖化の影響で、1時間に100ミリ以上の降雨

が増加し、台風の勢いが衰えにくくなっていると指摘。「集中豪雨が起きた場合、行政の対応が遅れる可能性があり、住民の自助努力と地域の防災力向上が課題」と強調した。

続いて、2004年の台風23号で旧市街地の大半が浸水した豊岡市の中貝宗治市長が、当時の被害の状況や、救援物資を持つて駆けつけたボランティアの活動などを話し、「人間の力を超えた自然の脅威は必ず来る。1人の犠牲者も出さないうちにも、人と人のきずなを日頃から育むことが大切」と訴えた。

最後に、防災訓練に取り組み尼崎市東園田町会の古川育宏会長や自治体の防災

担当幹部を交え、水害の危険性を学ぶ大切さなどについて話し合った。